

## 1. コラム「論点提起」：2024年の振り返り 変容の兆しの行く末や如何

【非常時が常態化へ変容】 2024年は新年早々（1月1日）、令和6年能登半島地震（M7.6）が発生した。そして、9月21日、復旧途上の被災地に記録的豪雨が発生した。時間差の複合災害と云える。今も余震が続いている。そして、2024年8月8日、日向灘を震源とする宮崎県南部で震度6弱の地震が発生し、気象庁が初めて南海トラフ地震の臨時情報を発表した。2024年の日本で発生した震度3以上の地震数406件、震度5以上27件（2024/11/19現在）。激甚災害指定の豪雨4件。いまや、日本全域において、大規模な自然災害・複合災害のリスクが高まっている。コロナ禍のようなパンデミックも少なくとも10年単位で発生する時代に入っている。こうした非常事態が発生したときのリスクマネジメント力、レジリエンス力が国、自治体、企業、個人に問われている。

【安い国への変容】 2024年2月24日、台湾のTSMCが熊本に工場を開所し、半導体の日本国内での製造の流れが起きている。その理由として、国際的な地政学リスク（経済安全保障政策）を背景にしつつ、日本の安い良質の水、電気、労働力（日本の平均年収はOECD38加盟国中25位：2022年）が指摘されている。日本へのインバウンドの増加（10月までの累計ですでに3千万人超）も、日本の文化への評価もあるが、ホテル・食事等の費用が国際的にみて安いことが理由の一つにある。さらには、日本のマンション、リゾート施設、空き屋等の価値を評価し、買っている外国人（投資家、移住者）が少なくない。日本は世界的に価値あるものが安く買われる国になっている。

【政治システムの変容】 2024年7月7日、東京都知事選挙が行われ、石丸伸二候補の選挙方法が話題となった。9月27日、自民党の総裁に党内野党であった石破茂衆議院議員が選ばれ、10月27日に衆議院選挙が行われ、15年ぶりに与党が過半数割れとなり、国政レベルでの一部野党との政策協議の開始という構造変化が起きている。米国では、11月5日、次期大統領がトランプ元大統領の再選という選挙結果になり、世界が身構えている。そして、11月17日に行われた兵庫県知事選挙において、失職した斉藤前知事が再選したがそのSNS戦略の実施をめぐる物議が起きている。選挙イヤーの今年は、「SNS選挙」と云われるほどにその影響は大きく、選挙システムが変容した。

【宇宙技術の変容】 2024年1月20日、JAXAは小型月着陸実証機「SLIM」による世界初となるピンポイント月面軟着陸に成功した。SLIMに搭載され、月面に放出された小型の変形型月面ロボットは世界最小最軽量の月面探査ロボットとなった。そして、2024年2月17日には、国際競争力確保に向けて新しい設計概念に基づき開発していた大型液体燃料ロケットのH3ロケット2号機（三菱重工業が製造・打ち上げ）の打ち上げにも成功した。（昨年3月の1号機打ち上げは失敗）。米国では、2024年2月23日、世界初の米企業による無人月着陸船による月面着陸に成功した。10月13日には米企業が開発している大型飛行船スターシップの試験飛行打ち上げたに使用したロケットを発射場に戻し、発射台に取り付けられたアームで「キャッチ」することに初めて成功した。いまや、宇宙開発は民間主導による新たな技術レベルへと進化・変容しつつある。宇宙技術の進歩は地球上の通信・モビリティ等の生活、そしてすべての産業活動のあり方に革新をもたらし、それがさらに宇宙技術の進化を促すという「地球と宇宙の循環ループ」の更なる進化を招来する。

構造的変容の兆しを「マイ・ファースト」を超え、地球の「良い変容」に向けて舵を切れるか如何。